

大杉谷国有林からの手紙

24通目 ～森林を…^{き き}聴き、^{み て}観て、^{かんがえる}勘える～

大雪の初候、閉塞成冬(そらさむくふゆとなる)の頃となりました。

ここ大杉谷国有林でも、台風21号の影響で遅れていた間伐が急ピッチで進めらる中、先月末には、桃の木小屋、栗谷小屋が今シーズンの営業を終え、シカの捕獲わなが撤去されるなど、季節は、着実に冬本番に向かって歩みを進めています。

さて、今回は、11月に行われた2件の業務研究発表の取組について、ご紹介します。



夏の賑わいが嘘のように静かに佇む栗谷小屋

まず1件目は、21日、22日に近畿中国森林管理局大会議室で開催された「平成29年度森林・林業交流研究発表会」についてです。

この発表会は、公益的機能の高度発揮のための森林施業、民有林経営への支援となる林業技術や手法の確立、森林環境教育の推進、民有林・国有林が連携した森林・林業の再生に向けた取組などについて、その成果の普及・定着を図るとともに発表者相互の研鑽、交流、連携を深めることを目的としています。

発表は、当局の職員だけでなく、自治体や森林組合の職員、高等学校や林業大学の学生等も研究成果、取組成果を発表し、今年度は、24課題の発表が行われました。

三重署からは、「高標高域における森林植生の保全・回復を目指して」と題し、大杉谷国有林におけるシカ被害対策の軌跡と今後の展開についての発表を行いました。

これまでの5年間の取組により、アプローチが困難な高標高域でのシカ被害対策には、最優先で森林植生の回復を図る地域(優先捕獲地域)の設定及びロードマップによる植生回復に向けた道筋を明確に示し、広く意見を聴きながら、対策に反映させていくことが有効であることが確認できました。

新たな課題として、シカ被害対策の鍵と



森林・林業交流研究発表会の模様

なる個体数調整については、今後、シカの食圧が低い状態を維持するための低コストで簡易な捕獲の確立が必要であることが明らかとなりました。このため、引き続き、ロードマップにより植生の早期回復に向けた道筋を明確に示した上で、科学的データによる対策効果の検証を行い、順応的な管理を進めていくことが重要だと考えています。

なお、詳細は (<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>) まで。

2件目は、30日に、農林水産省内で開催された平成29年度「国有林野事業業務研究発表会」についてです。

この発表会は、各森林管理局における現場業務の実行を通じて得られた森林の効率的な整備手法や森林環境教育の推進、森林生態系の保全管理等に関する取組の成果を広く発信することを目的としています。

発表は、森林技術部門が14課題、森林保全部門が6課題、森林ふれあい部門が7課題の計27課題で、三重署からは、「大杉谷国有林における防鹿柵設置による森林植生の回復について～成功例を検証する～」と題し、森林保全部門で発表を行いました。

発表では、平成15年に設置した防鹿柵によって回復した森林の植生調査の結果を紹介し、植生回復における天然更新の活用について考察しました。天然更新に関する貴重なデータを蓄積していくためにも、今後の継続的な調査が重要だと考えています。

なお、詳細は (http://www.rinya.maff.go.jp/j/gyoumu/gijutu/kenkyu_happyo/index.html) まで。



国有林野事業業務発表会の模様



森林植生の早期回復が必要な地池林道周辺



平成15年度の防鹿柵設置により植生が回復

今回、ご紹介した業務研究は、森林の声を聴き、森林の姿を観て、将来の森林を勘える貴重な場ですので、これからも、積極的に取り組むとともに、その結果を署のHPなどで公表していきますので、皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)